

ウエスイ 通 信

2018 新春号
vol. 39

発行所：ウエスイ設備
姫路市網干区興浜 1344-4
平成 30年 1月1日発行



七福神



七福神(しちふくじん)とは、あらゆるものに福をもたらすとして日本で信仰されている恵比寿、大黒天、毘沙門天、弁才天、福祿寿、寿老人、布袋の七柱の神であります。仏教經典の「七難即滅七福即生」から七柱の神になったともいわれます。ありとあらゆる幸運をもたらしてくれる七福神は、室町時代頃から 幸運、福運、とくに金運をさずけてくださる七神としてまとめ信仰されるようになりました。インド・中国・日本の神様がご一緒にうちそろって宝船に乗り幸運を運んでくるといわれています。



どんな初夢をみられましたか？

一富士二鷹三茄子 縁起の良い初夢

一富士二鷹三茄子(いちふじ・にたか・さんなすび)を初夢に見ると縁起が良いという言い伝えがあります。その由来や意味合いはどういったものなのか調べてみました。

日光東照宮の大権現・徳川家康公との関わり

一富士二鷹三茄子の由来に言及するうえで欠かせないのが、江戸幕府の初代征夷大将軍であり、日光東照宮に祀られる大権現・徳川家康公との関わりといわれています。徳川家康公と関わりが深いのが駿河国(するがのくに)、現在の静岡県であるが、静岡県の名物と言えば、世界遺産にも登録された日本最高峰の霊峰・富士山。そしてその富士に棲む鷹、初物の駒込茄子などがあり、これらがまとめて一富士二鷹三茄子とされたようです(諸説あり)。縁起物としての意味合いは、富士は「不死」、つまり不老長寿につながるとされるほか、「無事」、つまり家内安全・無病息災といった解釈もあるという。鷹は高い位・出世、茄子は実がよく成るので子孫繁栄、または「事を成す」(成功を収める)といった意味が込められているそうです。また、一富士二鷹三茄子の続きがあり、初夢の縁起物としては、「一富士二鷹三茄子」に続く「四扇(しおうぎ)、五煙草(ごたばこ)、六座頭(ろくざとう)」なるものも存在します。扇は末広がり子孫繁栄・商売繁盛、煙草の煙は運氣上昇、座頭は毛がないので「怪我ない」、つまり家内安全・無病息災といった意味合いがあるようです。



新年あけましておめでとうございます。

昨年は格別のお引立てを賜り厚く御礼申し上げます。

本年も、より一層のご支援を賜りますよう、従業員一同

心よりお願い申し上げます。

平成三十年

元旦

戌

株式会社 ウエスイ設備

代表取締役 上田 文雄